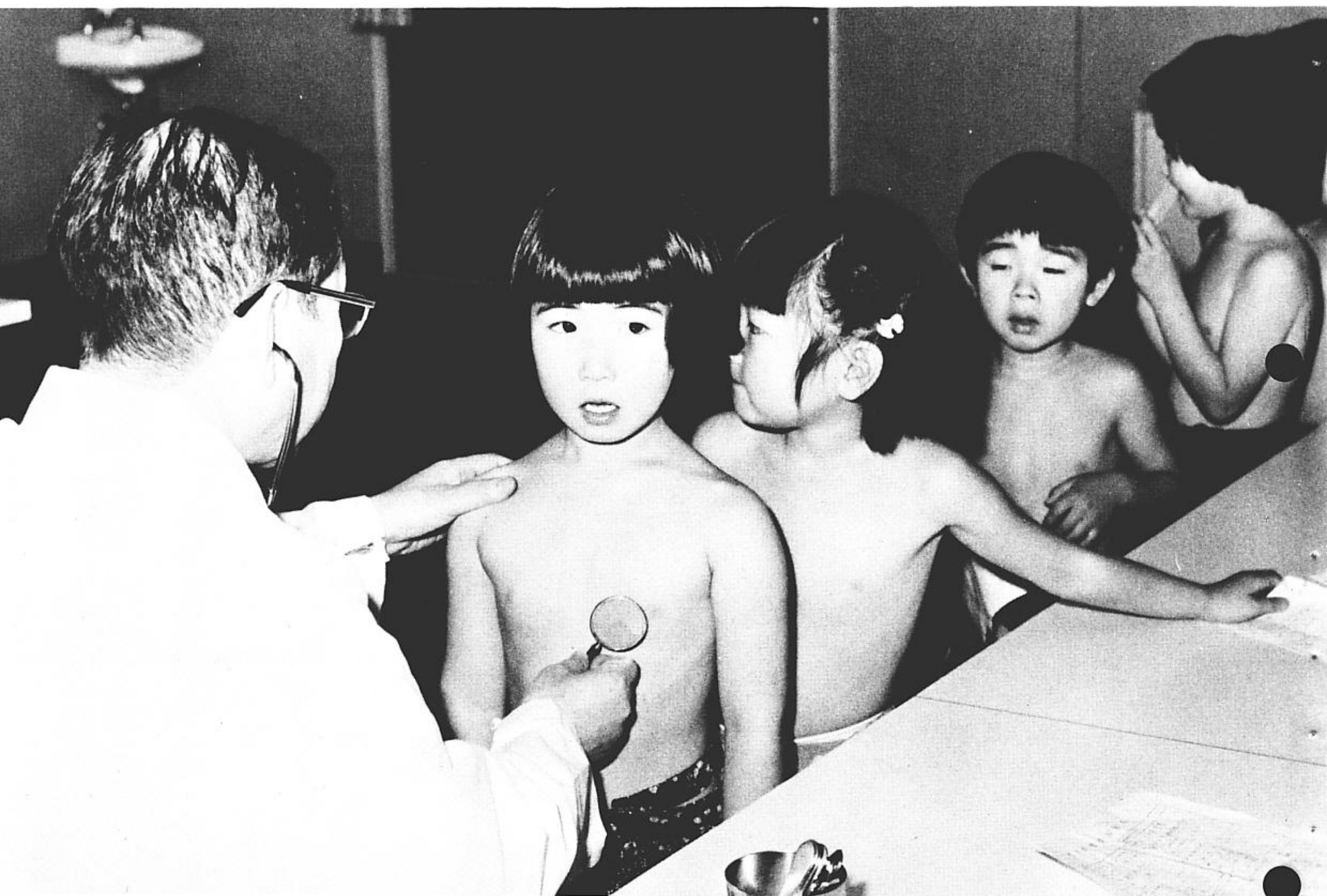




健康な体で入学を

来春入学児の健康診断

病気や虫歯は早く治して健康な体で入学を―来春四月に小学校に入る子供たちの健康診断が十一月十八日、有鄰館で行われました。

対象児童は全部で七十四人。

受け付けを済ませた子供たちは、聴力、視力の検査のあと、お医者さんの診察。いつもは元気な「きかん坊」たちも、白衣のお医者さんの前では神妙そのもの。検診カードを手にし、自分の順番が回ってくるのを不安そうに待っている子、診察を受けている友だちの様子を横からじっと見つめる子など、表情もいろいろです。

検診を終えた子供たちは、早くも一年生気分で、春が待ち遠しいといった感じでした。

町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

指数82の「著しい不良」



11月7日には、昨年より四週間も早く初積雪があり、今秋は三日ともたない不順な天候で、町内では刈り取りの遅れた約500 aの稲田が雪に覆われた

〈年次別産米出荷状況等〉

年次	作付面積 ha	限度数量 俵	出荷数量 俵	10アール当 たり収量 kg	作況 指数
昭和56	980	73,863	62,821	430	82
55	1050	76,896	73,959	497	95
54	1040	76,459	73,620	502	96
53	1010	75,759	80,682	556	107
52	1060	79,298	81,504	542	104
51	1060	78,556	70,654	462	89
50	1030	80,306	86,511	563	110
49	1040	81,720	86,697	539	107
48	1030	78,000	80,544	530	105
47	985	74,833	67,182	487	97
46	980	71,330	62,181	456	91
45	1080	—	89,348	562	116

定高収量を維持してきた平

……と厳しい表情。

毎年、コンスタントに安

といえます。

減反に二年続きの不作で、農家の台所は冷えきっているといわれ、行政、農業団体、農家は▽異常気象下での良質米安定生産体制▽生活の見直し▽米一辺倒の経営から脱皮するために転作の定着▽複合経営の安定確立へ、今後、いっそう厳しい対応が迫られるといえます。

迫られる 厳しい対応

再生産のための営農資金や種子の確保など、援護対策をすすめていくことにしました。

さらに、被害の実態調査と原因解析、関係団体との連絡調整を図りながら、経営維持、再生産のための営農資金や種子の確保など、援護対策をすすめていくことにしました。

入れ⑤五十七年度転作目標面積の大幅な軽減——など、被災農家の救済のため、諸対策を講じるよう国や県に要請。

こうしたことから町では十一月七日、町、議会、農業委員会、農協、共済組合、農業改良普及所、町農業総合指導センターの代表者を本部員とする「東田利町冷害対策本部」を設置し①天災融資法の早期発動②融資資金枠の拡大③水稻共済制度の運用の見直し④硬直化した農協経営へのテコ入れ⑤五十七年度転作目標面積の大幅な軽減——など、被災農家の救済のため、諸対策を講じるよう国や県に要請。

坦部でもこうした不良とあつて、生育期全体を通して異常気象は、昨年の冷風を伴う局地的な偏西風よりもはるかに強い影響力を持っていたといえます。

昭和56年度 水稻作況

被害額は二億七千万円

「町冷害対策本部」を設置

刈り取りが進むにつれ顕在化した作柄不良——東北・北海道を中心に二年続きの冷害で戦後最悪の作柄が確実視される中、今年の稲作も早や収穫期が過ぎ、本町でも昨年を大幅に下回る作況指数八二の著しい不良になる見込みとなりました。被害額は、二億七千万円を超えるものとみられ、実り少ない暗い秋となって農家の肩に重くのしかかっています。事態を重くみた町では、十一月七日、町長を本部長とする「東田利町冷害対策本部」を設置し、被害の実態調査と原因解析にあたる一方、関係機関・団体と連絡調整を図りながら、今後の営農、経営対策などに対処していくことにしました。

町産業経済課が十一月二十七日現在で取りまとめたところによりますと、本町に今年割り当てられた七万

三等米が三千五百三十八俵とあっており、一等米比率は六〇・九%と、収量減に加えて品質低下も目立っています。

三千八百六十三俵の限度数量に対し、一万一千四十二俵減の六万二千八百二十一俵が売り渡しできる見込みとなっています。一方、出荷状況を見てみると、十一月二十六日現在の検査終了米は五万九千五百九十八俵で、等級別には、一等米が三万六千三百七十七俵、二等米が一万九千六百七十三俵、三等米が三千五百三十八俵と

これら数字に農家保有米等を勘案し、本町の作況指数を試算してみますと、八二の著しい不良となり、被害金額は二億七千万円を超えるものと推定されます。

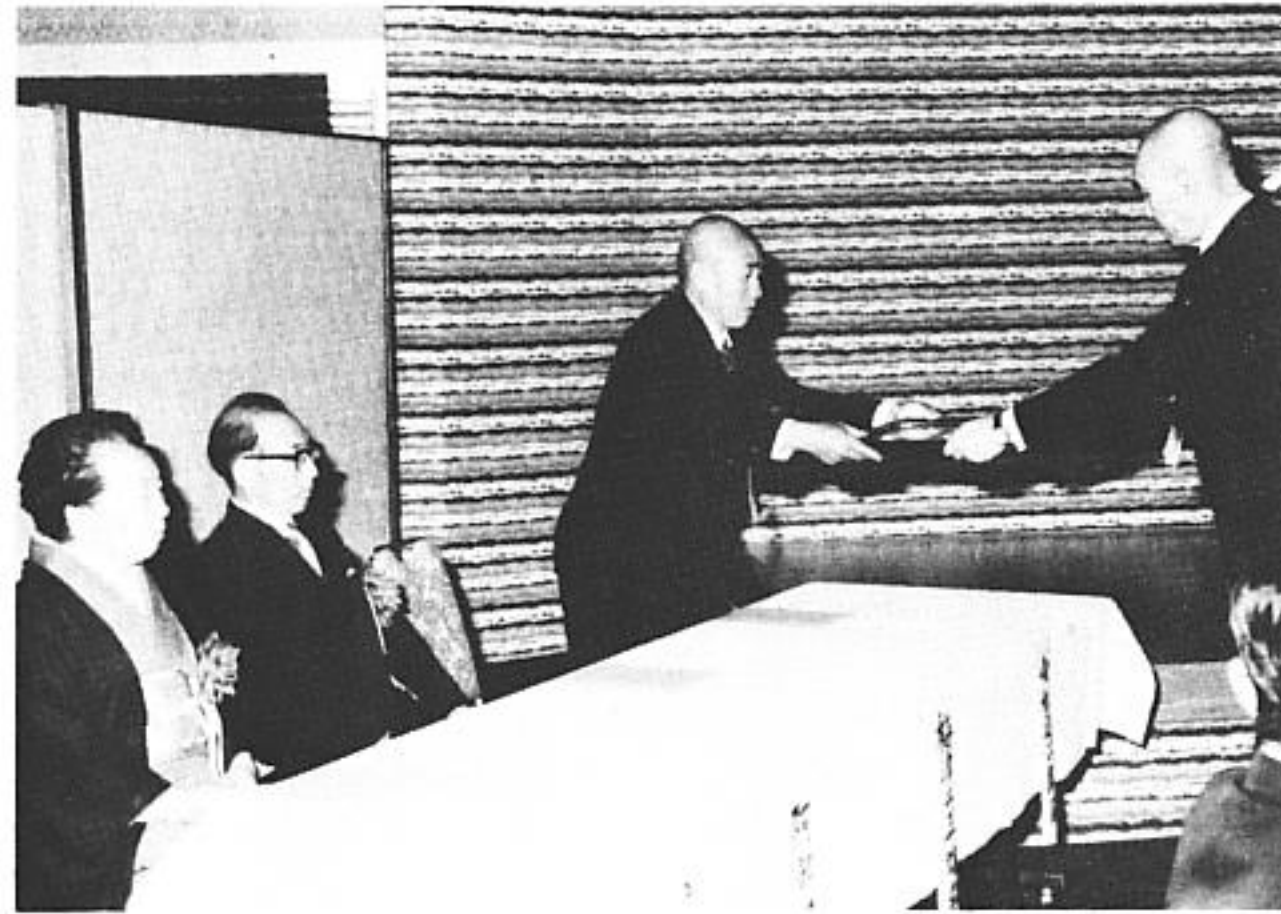
こうした作柄について町農業総合指導センターでは、「五月中旬から六月下旬までの異常低温、日照不足、多雨により、初期生育が不良となり莖数不足となった。また、八月以降も低温、少雨が続き、さらに台風、多雨が重なり、登熟不良モミや穂ずれによる変色モミが多く発生し、大幅減収につながった」と見えています。

水田三畝を耕作する町稲作研究会会長の小野源一さん蔵新田も同じ見解で、「例年、十アール当たり十二俵十三俵の収量をあげ、余り米を出してきたが、今年は、逆に五十俵六十俵の減額補正をしなければならぬ。農薬代や肥料代、それに一・五畝の小作料を払って手元に残るのは、良くて例年の六割。当分はギリギリの生活をしなければ。心配なのは、来作のための種子対策。海岸部、内陸部を問わず冷害による不作となっていることから、傷などのない健全な種モミを確保し健苗育成ができるかどうか……」と厳しい表情。

三氏に町功労者章

文化の日に晴れの表彰式

今年の町功労者表彰式は、文化の日の十一月三日、前表



彰者、町自治功労者、議会議員、各団体長ら七十人余りが出席し、有鄰館で行われました。式は午前十一時三十分始まり、町表彰条例に基づき町功労者選考委員会

の選考を受け晴れの受賞となった、小松運次郎氏(新町、七十三歳)、梅津二三雄氏(大琴、六十八歳)、功績をたたえる表彰状と功労者章が町長から被表彰者に贈られた。

良質桐の主産地に

保育管理コンクール実施

阿部マサエ氏(岩館、七十一歳)に(既報)、それぞれ功績をたたえる表彰状と功労者章が町長から贈られました。このあと町長が、「本日表

彰を受けられた方々の功績については、私が改めて申し上げるまでもなく衆知のことであり、長年にわたり、それぞれの分野で今日の東田利町勢発展のためにご尽力くださいましたことに對し、心からお礼申し上げます。厳しい諸情勢の中で、町勢のなおいっそうの発展のため、今後ともご指導、ご協力を賜り

第一回町桐保育管理コンクールの表彰式が十一月十日、大蔵館で行われ、小番銚平さん(家の下)ら十一人に賞状並びに記念品が贈られました。

良質桐の主産地化を目指そうと、町が今年初めて開いたものです。

このコンクールは、桐樹の優れた保育管理を行っている人を表彰し、広く紹介して桐栽培者の指針にするともに

今回は、一部(林齢が三年生〜七年生未満)に二十四点、二部(林齢が八年生以上)に九点の応募があり、それぞれ書類・現地等の予備審査、本審査を行い、入賞者を決定し

宿・下吹和牛組合に優良賞

横渡生活改善も知事表彰

本年度の秋田県食糧基地推進大会が十月二十九日、秋田市の県民会館で行われました。席上、集落農場化方式等で厳しい農業環境を克服し、農業生産の向上と住みよい農村づくり

宿・下吹和牛改良組合に優良賞(知事賞)が、横渡生活改善実行グループに知事賞が贈られました。

る集団等が表彰され、本町の

その名のとおり宿、下吹の肉牛飼養農家二十戸で組織しており、▽全戸が水稲プラス肉

用牛の安定した複合経営の確立に努め、肉用牛については計画交配によって資質改良を積極的に実施し、認定牛が四六%を占めている▽子牛販売一頭につき二万円の「ママさん貯金」を推進して婦人に励みを与えるとともに、月一回の農休日設けて集落内のコミュニティ・センターの形成に努めている。が受賞理由となっています。

は、二十二年間のグループ活動の実践を生かし、自給農産物の加工貯蔵から、生産物の交換、販売へと発展し、農家所得の向上と生活の改善に大きな成果をあげ、また、グループが中心となり集団転作を実施するほか、自治会や公民館活動でも婦人組織のリーダーになるなど、新しい村づくりの先導的役割を果たしていることが評価されたものです。

「青年部」を設置 町森林組合

大蔵館で設置総会が開かれました。

青年部には四十四人が参加。総会では、規約、事業計画、予算について審議。当面は、部員相互の意志疎通を図るとともに親睦を深め、育林技術の講習会や県林業センターを

この日、表彰式終了後には本町館西出身で秋田県林政課課長補佐・兼専門技術員の佐藤恒悦氏(玉治氏長男)から「桐栽培の仕方について」と題する特別講演がなされ、栽培者の指導、ご協力を賜り

ますようお願い申し上げます。だいで」と式辞を述べ、続いて、小野町議会議長、佐藤教育委員長からお祝いのことが寄せられました。これに對し、梅津氏が被表彰者を代表して受賞の喜びを述べ、式はとどこおりなく終了しました。

●町長賞 ○小番銚平(家の下) ●柏原健一(新町) □小松鉄郎(下通) □佐藤謙(館西) ●普及協会由利支部長賞 ○佐藤知泰(宇戸坂) □長谷山誠一郎(下通) ●町森林組合長賞 ○渡辺茂一郎(時雨山) □堀石春雄(田代) ●町桐栽培組合長賞 □佐藤公一(大吹川) ○小野松雄(蔵新田) ●佐藤勝(五海保) (敬称略)

視察研修することにし、役員を互選して閉会しました。

本町の八三%は山林原野でこの活用は、農業振興とともに町の重要課題となっており青年部の今後の活躍が期待されます。

役員の氏名等は次のとおりです。任期は、昭和五十八年五月三十一日まで。

●部長 八嶋祝雄(黒瀨) ●(副部長) 小笠原豊和(蔵新田) ●(委員) 佐藤幹夫(黒瀨) ●小松功(高戸屋) ●小番正裕(家の下) ●小松宜夫(須郷田) ●遠藤基(小倉) ●小笠原均(蔵新田) ●鈴木功一(杉森) ●(監事) 小松芳久(高戸屋) ●遠藤傳治(桂台) ●(庶務・会計) 小松聖明(須郷田)

力作1,200点を展示 町生活文化祭

今年の町生活文化祭は、十一月一日から有鄰館、明楽荘、公民館で、農協祭は、十月三十一日からライスセンター、低温倉庫で、それぞれ三日間

開かれました。生活文化祭は、衣服・手芸品や発明工夫品、写真、わら工品、陶芸品、書画、いけ花、俳句など、子供からお年寄り



〈老人作品展〉今では、見る事の少なくなったわら工品も多数出品

までの力作千二百点余りが展示されたほか、青年会や各分館による「ふるさと演芸会」や「カラオケ大会」も行われ、期間中、延べ約三千人の観覧者が訪れ、それぞれ手の込んだ作品等に見入るなど、にぎわいを見せていました。

また、文化祭二日目には、町農業近代化ゼミナールが、みどり、永慶の両保育園児を招待して有鄰館で「もちつき大会」を催し、つきたてのもちをもちそ



〈衣服・手芸展〉ちょっと拝借…こわれたこうもり傘のリフォーム作品・子供用カッパ



〈発明工夫展〉チビッコ発明家による大人顔負けの発明工夫品が数多く展示され相変らずのにぎわいを見せていた

県発明展

三人が知事賞に輝く

町チビッコ発明家大活躍

第三十回秋田県発明展は、十一月十四日から四日間、県内発明マニアの自慢の作品二百七十四点を集め、秋田市の県児童会館で開かれました。

審査の結果、一般の部で大日向貞弘さん(大琴)が仙台通商産業局長賞、大日向由佳さん(蔵小四年)、阿部里美さん(老方小四年)、佐藤文さん(同小六年)が知事賞に輝くなど、本町では十五人が入賞、〃発明の町・東由利〃

を県内に印象づける見事な成績をおさめました。本町の入賞者等は次のとおりです。(敬称略)

〈仙台通商産業局長賞〉大日向貞弘(大琴)〃消防用水力発電機

〈秋田県知事賞〉・大日向由佳(蔵小四年)〃ものほし・阿部里美(老方小四年)〃おりたたみ式絵の具水入れ・佐藤文(同小六年)〃自動物干し器

〈秋田市長賞〉小松聡子(老方小六年)〃改良ベッド

〈河北新報社賞〉畠山章(老方小五年)〃危険防止付ガスコンロ

〈県商工会連合会長賞〉畠山亮(老方小六年)〃身体障害者用ものほし台

〈財団法人・斎藤憲三顕彰会賞〉金子宇成(老方小六年)〃アルミかん、鉄かん分類くずばこ

〈発明協会秋田県支部長奨励

賞〉・畠山春子(大琴小四年)〃から燐き防止器・長谷山冬樹(住吉小三年)〃じょうずに煮えるなべた・佐藤靖香(同小四年)〃便利な袋こし器・安倍正(玉米小三年)〃かきもぎ機・小松真紀(老方小六年)〃融雪警報器・畠山浩子(同小六年)〃非常用水保管タンク・小松昭作(下小路・県派遣社会教育主事)〃ゲートボールコート設営機

みんなそろって明るいお正月を



「歳末たすけあい運動」
にご協力を
12月1日～25日

「ひとの心の暖かさ」——今年も恒例の「歳末たすけあい運動」が12月1日から1カ月間にわたって行われます。昨年は町内から40万2百74円が町社会福祉協議会に寄せられ、低所得世帯や長期入院、入所者に全額配布し、喜ばれました。

恵まれない方が、みんなそろって明るいお正月を迎えられますよう、今年も是非、あなたの「善意の灯」を!

親子三代が渡り初め

市造台橋

「高瀬館」・「市造台橋」の完成祝う

昨年から新農業構造改善事業として工事を進めてきた

た宿地区多目的研修集会所施設「高瀬館」と大平農道「市造台橋」がこのほど完成し、十一月六日、町、議会、工事関係者、地元住民代表ら約百人が出席して喜びの落成式並びに渡り初めを行いました。

高瀬館は、およそ八千三百万円を投じ、大琴小学校北側に建てられた延床面積四一〇・九九五平方メートルの鉄筋コンクリート二階造り建物で、集会、研修、生活改善等の機能を備

えています。(町報56年11月1日号参照)

市造台橋は、舟木と下吹を結ぶ大平農道整備に伴い、舟木地内に新設された、長さ四四・五メートル、幅三・八メートルの永久橋です。

この日は、午前九時から高瀬館で神事後、町長、議長、遠藤第一会館建設推進委員長がテープカット。

このあと、市造台橋前で神事後、町長、議長、長谷山二郎大平線整備促進委員長が紅白のテープにハサミを入れ、

続いて、神官を先頭に、舟木の長谷山専太郎さん(七三)、ハルオさん(七二)夫婦に息子夫婦、孫夫婦の親子三代と関係者らが渡り初めをし、感激の足跡を印しました。

このあと、高瀬館落成式が

同館で行われ、工事関係者と同館の敷地を提供してくれた梅津二三雄さんに町長から感謝状が贈られました。続いて、町長が「厳しい諸情勢の中で、新しい施設を活用し、町発展の一翼を担い、新しい生産文化、農業の創造のため、研さん、努力されますことを期待します」とあいさつ。小野町議会議員、由利農林事務所三浦農務課長、秋田宿会を代表して佐々木良一さん(大琴

出身)らからお祝いのことが述べられました。これに対し、地元住民を代表して遠藤第一さんが「町、議会、県等、関係者らのお陰で立派な会館の完成をみるこ

東中が努力賞

佐藤さん(新町)に表彰状

県花だん
コンクール

由利中学校が中学校・高校の



花いっぱい運動推進功労者表彰を受けた佐藤さん

部で努力賞を受賞、同校用務員の佐藤昭一さん(五十四歳、新町)に、花いっぱい運動推進功労者として、小畑好子県花いっぱい運動の会長から表彰状と記念の楯が贈られました。

佐藤さんは、昭和四十六年の同校開校以来、校地の緑化、特に、花だん・花木の整備充実に献身的に取り組む、昭和

国保の窓

必ず国保に届出を

交通事故にもかかわらず、無届けのまま国保の保険証を使って受診されますと、本来支払う義務のない医療費を国保が負担することになります。また、加害者と被害者の話し合いが付き、示談を結んでしましますと、その示談書のとり決めの内容が優先することになり、

国保と交通事故

②

示談前に必ず役場の国保係に届け出てください。

事故にあつたら

一、必ず警察に届け出る。

二、免許証を見せてもらい、住所、氏名、車のナンバー等をメモしておく。
三、示談は慎重に。国保、警察に届出をする前に示談を結ばない。
四、目撃者をさがす。
事故の場合、お互いに興奮しており、相手の過失をなじり合うのがオチです。すから目撃者をさがして、住所、氏名等を聞いてメモしておく。(役場国保係)

「ほんの1杯だけ」が命とり

12月1日～10日 年末の交通安全運動

12月1日～31日 飲酒運転追放強調県民運動

運動の重点

- ① 老人・子供・身体障害者の事故防止
- ② 安全運転の確保
- ③ シートベルト着用の促進
- ④ 飲酒運転の徹底追放

五十五年度県学校環境緑化コンクール優勝、同全国コンクール入賞をはじめ、毎年、全県花だんコンクールでは上位入賞をもたらす、学校環境緑化整備と情操教育に貢献してきたことが認められたものです。

ヨーロッパ山村1千キロ

町 長 榮 男
小 松



ザルツブルク州の山村（オーストリア）

小松町長は、全国山村振興連盟の「第二回・ヨーロッパ山村事情視察研修」に参加、十月十七日から、ドイツ、オーストリアの二カ国を訪問し、同月二十八日に帰国しました。「視察レポート」を紹介します。

成田から22時間
でウィーンへ

10/17・10/18
成田から六時間、荒涼とした、アンカレジの空港に降り立つ。

ここからブラッセルまでは八時間半、長い飛行の後、ス

コットランドの上空を通過して四十分ほどで、小雨の降るブラッセルの空港に着陸した。到着ロビーに入ると、ローカルタイムが午前六時を指して、日本と八時間遅れの時差である。

ア航空に替わる。オーストリアは、かつては、欧州に覇を競った大国である。その栄光が国民の襟持に残っているのであろうか。機内のサービスも優雅である。

ウィーンの上空。厚い雲の中を、機は視界を意にせず降下する。

長く続いた誘導灯と、濃い

農業自体が観光資源

国土保全と観光上
から山地農家保護

10/19
ウィーンの朝は、七時に寺院の鐘が鳴るがまだ暗い。

日本大使館を訪問。続いて、オーストリア農林省で、若手官僚・フーベル氏より、山地農業政策を聴く。



マイヤーホーヘン村の観光農家（オーストリア）

第一のグループは、傾斜度二五度以上の農地が八〇%以上であるもの。
第二のグループは、右の農地が四〇%、八〇%未満であるもの。
第三のグループは、右の農地が四〇%以下であるもの。
第一のグループには、最高十二万八千円、第二のグループには六万五千円を直接補助をする。農家の経営改善、交

霧が、ウィーンの空港の印象である。
市内に入って、ハプスブルク王朝の宮殿、楽聖の旧居等を見て回る。ウィーンの森は、アルプスの山系が平野に尽くるところ。緑濃きダニュープは、この古都に漣を寄せて流れ去って行く。

通の改善に補助と融資と利子補給がある。山村の道路改良は、過去数十年政府は努力してきたが、まだ一万戸の山村農家は交通に恵まれていない。「農村で休暇を」のスローガンのように、農村、農業それ自体が観光資源である。民宿農家が、全国で二万六千戸、ベットの数が二十三万あり、民宿農家建築に補助、融資がある。

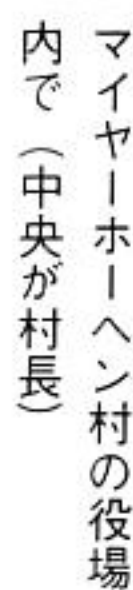
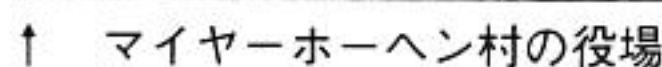
以上が要旨であった。

この日の午後、「シュタイアマルク州」の州都、二百五十キロ離れたグラーツに向かう。ウィーンの市を出て、二十分も走ると農村地帯に出る。平野から丘陵、山地と入って行く。山麓の草地、山腹のモミの森、美しい農家の集落、岩の残る峠を越え、谷を下ってグラーツの街に着いたのは夕暮れだった。

洋の東西を問わず
厚い農家の人情

10/20
シュタイアマルク州は、オーストリア

の緑のハートと呼ばれる地帯である。州の農林省を訪ねて、山地農業の政策を聴く。
州の農家数は七万戸。うち山地農家として、保護対象農家は二万一千戸。国では経営の困難度から、三つのグループに分けているが、この州では、キメ細かく十のグループ



役場を訪ね、村勢を聴く。

国境とは、名のみで、道路にバーが出ているだけである。

畜産と民宿の村
マイヤーホーヘン

10/21
この日、グラ
ツを発って、「チ

村の入口ではハンクグライ
ダーの大会が進行中である。
宿舎に入ると、州の農業経済
部長が待っていて、早速民宿
農家の「ハイザーさん」宅に
案内される。

10/22 マイヤーホーヘン
の夜は静かであつた
それもその筈、目ざめると、
一面の銀世界である。宿舎の
テラスも、教会の屋根も、白
一色である。今日は国境を越

通つてチロルに入るのである
オーストリアの中央部を、東
から西に横断する形になる。
霧の濃い日であつた。昼頃、
霧が薄れて、アルプスの山容
が現われ目が奪われていると
いつの間にか、アルプスの山
系の中に入り込んでいること
に気がついた。

觀光立村である。役場職員は十四人の由。村長は、自慢の施設を見せたいという。それは、昨年国際会議を開いた、その名も、ヨーロツパハウスという集会施設と、水の流れも取り入れた、ロツクガーデン風の広場である。どこからか堆肥の臭いがする。冬を前

十月下旬
もう銀世界

10/22
マイヤーホーヘン
の夜は静かであった

草を背負った老人が、急斜面を、手を振りながら降りて来る。この老人がハンザー氏であつて、農業と民宿の兼業である。民宿といつても小型のホテルである。広い食堂と

えて、ドイツのミュンヘンに行く行程である。雪路であれ
ば、出発も早めねばなるまい。
まだ暗い食堂で、朝食を取る。
アルバイトの村娘も食堂の隅
でパンをかじっていた。

きれいな寢室。国の補助と融資によってつくられたものである。彼は篤農家でもあり、食堂には、共進会入賞の記念品である、牛の首につける鈴とベルトが、何年分も飾られてあった。

村を出ると、昨日、ハング
グライダーの飛んで来た山腹
も、堆肥の臭った村の周辺の
草地も、雪である。このチロ
ルの谷を、予定を早めて出発
した。

雪が次第に雨に変わり、ミュンヘンでは曇りになった。ここで、ウィーンから五日間、行を共にしてくれた運転

西ドイツ

見習うべき林業の施業計画

住宅と畜舎がひとつの棟に

10/23

バイエルン州の食糧農林省を訪問し、参事官ザイラー氏より政策を聴く。

- ・州人口 一千百万人
- ・農業人口 一三%
- ・農家戸数 二十七万戸
- ・専業農家 九万戸



↑西ドイツのアウトパン(高速道路)



↑西ドイツの山村↑



ミュンヘン市役所

特異なことは、住宅と畜舎がひとつの棟にあることである。周辺の農家を見ると、こ

10/24

ミュンヘンビールと市庁舎

この日はミュンヘンの市内見学。

の造りは、この地方のパターンである。遠くを見ると冬の山なみが、もうこの盆地を囲んでいた。住宅の中に入る。興味深いのは、暖炉である。薪が燃料で焚口が廊下に入り、室内に積んだ石材が熱せられ、それが放熱する方法である。家の内部の造作は、手造りと思わせる素朴なものであるが、生活の便利さを考えて合理的である。

同行した農業局員兼農業学校長の「グロベルさん」が、農業後継者教育について説明し、この家の孫長男とその嫁は、彼の教え子であると紹介した。ここでも、きついペスパア酒を馳走になり、雪の国を下ってミュンヘンへの帰途についた。

西ドイツには、十一の州があり、ミュンヘンは、バイエルン州の州都で、ドイツ第三の都市である(人口一四〇万)。市庁舎の前に「マリエン」という広場があり、多種多様な人間が、集散する。広場は彼らにとっては、何げなく、まず、行ってみる場所らしい。市庁舎は、高い尖塔を持ち、人形時計が飛び出す、芸術品ともいえるべき建物である。彼らは誇らしげに彫刻を指さし、塔を仰ぐ。

商店は、日本のように商品は山積みでなく、必要だけ置くという感じである。解せぬことは、計算器を使わないで、必ず筆算であること、シヨールウインドウは店内からは出し入れが出来ず、道路面から開閉することである。どういう訳か。午後六時には一斉閉店、もう少し融通が効いてもいい感じである。

ビヤホールに行く。ホールの中央に、トランペット、クラリネット、チェロ等の楽士が居る。奏するは、「双頭の鷲のもとに」ほか、これに類する行進曲である。楽士もテーブルにジョッキを置き、一曲毎に傾ける。来客は千差万別、まことに陽気である。我々に出された食事は、骨と皮付きの豚肉がゴロリと皿の上である。簡単なものだ。文字通り、ビールを飲むホール。ヒットラーが六人の同志と議論をしたのも、このよう

な酒場であつたらうか。ミュンヘンビールは、軽くて、甘くて、苦味があつて、流石に世界の本場の味である。

ドイツの森と草 地とアウトバン

10/25

ミュンヘンは快晴であつた。バイエルン州の隣りに「バーデン・ビュルテンベルク州」があり、その州都「シュトゥットガルト市」に向かう。二百五十キロの距離である。オーストリア人の運転士はウィーンに帰り、ミュンヘンの三日間は、元気のよい金髪の女性の運転士であつた。今日は、髭の立派な中年のドイツ人である。

ドイツはヨーロッパでは土地の狭い国であるが、我々の目には、広い耕地であり草地である。秋作の耕起中のところもある。草地に堆肥を散布しているところもある。森や林は、黄葉したぶなの木が混じった、青黒いものに秋の陽射しが光っている。

幾つかの村や町を過ぎ、大きな段丘があり、段丘を下ると、美しいシュトゥットガルトの街が展覧されている。大戦で八割まで破壊されて、戦後復興した街であるという。我々の目には戦後の街と見えない、重々しい何百年も続いた街に見える。途中まで晴れていた空が、いつのまにか小雨になつていた。

黒い森の「シュバルツバルト」

10/26

州の林野局を訪問。上級森林官ボルツ氏に聴く。西ドイツでは、森林の比率は、国・州有二三%、市町村有三七%、私有林が四二%。

我国では、公有林、私有林と林政は二本立てであるが、この国では、私有林も営林署の行政管下である由である。シュトゥットガルトの営林局を出て「ホルンベルグ地区」の林業研修所に向かう。途中、自動車のベンツの工場、電子

のIBMの工場が、田園又は林間にあるのが見える。

林道に入り、しばらくすると林業研修所に着く。研修所は古い煉瓦の建物に、さらに外形を似せて新しく建て増したもので、この林間にふさわしい。

研修生が昼食中で、一緒に馳走になる。

営林署長の案内で林地に行く。ここは黒い森で有名な、「シュバルツバルト」の一角である。モミの見事な造林地に案内された。彼らの思想は伐採量は生長量の限度内であり、伐採は択伐か抄伐、伐期は百年から百二十年、自然保

護、経済性は、金銭でなく森林そのものの生産性という考えである。広い林地を案内される。択伐による二層林、生長段階による抄伐、州有林も私有林も同一の施業計画の中にあるようであつた。

時間の無いのは残念だつた。署長も、時間があれば、山林労務者の働いている現場を見せたいというが、その時間が取れない。

自然保護と、徹底した施業の計画性、林業への愛情、林業とはこういうものであるということを、見せつけられた思いであつた。

その国の本当の姿は農村に

10/27

今日は帰国の日である。昨日、ホルンベルグの営林署長から、無事帰国されるよう挨拶があつた。二つの国、五つの州、三つの村、三戸の農家、一つの営林

署を視察した。その国の本当の姿は農村にある。

印象を三、三まとめてみると、

○ 何んといつても、国土を美しく、人間生活と自然との関係を注意深く調和をさせていることである。我国の国土も美しく特に季節の変化の美しさがある。それだけに開発と観光行政には配慮が必要と思われた。

○ 欧州では牛乳が余っているの、抑制措置をとっている。農村人口は減少しているが、社会変化のテンポが遅いため、農村は落ち着いている感じがあつた。

- ①食糧の自給は国家の自立上必要である。
- ②固有文化の維持発展のためには、農業機能を維持継続しなければならぬ。
- ③国土と自然を守るためには農村に人口を定着させなければならぬ。
- ④農村は、都市住民の保健のために必要な地帯である。

以上の認識である。

○ 農家の生活は、単純、質素である。家具、計器類も少なく、配置等からみても家事労働は、合理的であろう。

燃料は薪であり、量は

少ない、家屋が防寒的に出来ているため。紙類は非常に大切にされている。パルプ資源への関心が深く、小柴の類も粗末にされていない。

畜産、林業という単純なパターンであるので、日本農業のような複雑さがない反面、四季折々に、蔬菜や果実が豊富に食卓に上るということはなさそうである。

シュトゥットガルトの空港まで、日本からの留学生の奥さん(日本人)が通訳のため同行した。彼女は、就学している二児の母親であり、ドイツの教育と日本の教育を比較して話をする。外国での子供の教育は頭が痛いらしい。ドイツの雇用、社会保障等についても話をしてくれた。

あわただしく飛行機は飛び立ち、ブラッセルで乗り替え、ヨーロッパ大陸を離れた。イタリアからアラスカに出稼ぎに来た青年が、窓側の席を譲ってくれた。グリーンランドは、灰色の雪原と切り立った断崖。太陽は雲海に没し、すぐ又同じ雲海から昇る。世界の神秘的な部分。果てしなく続くアラスカの針葉樹林も見応えのある風景だった。

ベーリング海の上空は快晴であつた。(終)

町長日記は休ませていただきます。



シュタイアマルク州の観光農家(オーストリア)

チロルの民族衣装



海外研修レポート②

「海外研修レポート」―前回は、県海外研修

事業の青年・婦人部門に参加した佐藤カツ

子さん(須郷田)のレポートを紹介しました。

今回は、同部門に参加した佐藤力弥さん(宇

戸坂)のレポートを紹介します。

伝統・文化を大切にする欧州

佐藤 力弥(宇戸坂)

「ヨーロッパ」という言葉を聞いて、私達は、一体何を連想するだろうか。かつては、自由の象徴、経済・文化の中心地として、私達日本人のあこがれの的だった。現在は、ファッションナブルな国々というイメージで語られるのが主であり、ときには、得意気に「没落」という言葉を添える人もいる。戦後、日本のエネルギーシユな活動は、ついにここに来て、停滞するヨーロッパ諸国を追い抜き、アメリカに迫ろうとしている……。しかし、本当にそうなのだろうか。

カラフルな団地のような建物群、コーヒーを楽しむ二、三人の銀髪の老人たちに混じり、ホームで説明を聞いた私は、これらが全て老人施設の一部だということを知って驚いた。日本の隔離病棟のような老人ホームに比べて、市街地に位置し、人々が往来するこれら施設は、何と明るいのだろうか。しかも、同じ敷地内に幼稚園、小学校、中学校があり、建物は全て渡り廊下でつながれている。この廊下を行くと、いたずらっ子たちが、「ヘイ」「ヘイ」(こんにちは)

老人ホームは「自分の家」

森と湖の国「スウェーデン」は、日本とほぼ同じ面積で、八百万の人口をもっている。

と声をかける。孫のような子供たちとたわむれる老人もいる。

ここには、学校のほか、病院、体育館、図書館、実技室等の施設が建てられている。

施設建設の考え方として最も優れているのは、老人たちに一個の生活を提供できる施設を、ということであろう。日本の老人ホームの「自分の部屋」は、ここでは「自分の家」なのである。これは、日本の団地やマンションを連想して

もらえば一番わかりやすいかと思う。十畳ほどの部屋が三室と、バス、トイレ、台所―これが入居して来た老夫婦の部屋だった。(希望すれば一戸建住宅を選ぶこともできる。) こういう施設で、彼らは、自分の生活を積極的に組み立てていくことができる。

完全な核家族社会であるスウェーデン―移り住んでから一カ月ほどという老嬢に、「ひとり住まいはさみしくはないか」と尋ねたところ、「アパート住まいのときよりも設備はいいし、何より、建物内の全員が家族みたいなもので、友人も増えたと、移り住んで来て本当に良かった」と、満

足気な表情だった。

「白壁の家」が自然に調和

スウェーデンからドイツ、フランスと各地を回ってみると、郊外では、絵葉書きでよく見るような「白壁の家」が自然に融け込んで建っているのが見られる。都市の造りは、ほとんど石やレンガによっているようで、古びた建物がよく保存されている。さすが伝統あるヨーロッパ―と感心した。これは、それぞれの市の条例で、主に美観という点から高層建築などが厳しく規制されているためらしい。

西ドイツのウルム市は、人口十万人に満たないドナウ河畔の工業都市であるが、ここでは、ドナウ川を挟んで旧市街をそのまま機能させ、対岸をニューウルム市として新都市を建設中であつた。

ここで忘れてならないのは、パリにしても、ドイツ各都市にしても、戦争でかなり破壊されたはずだ、ということ。しかし、街並みは美しく整えられ、落ち着いたたた住まいを見せている。これは、彼らが信じられないほどの頑固士で、元通りの街並みを細部にいたるまで復元して来たたまものだということ。こういった彼らの街創りに対する姿勢や努力には、ほんとと感心させられてしまった。

生活の中に「余裕」を持つ努力を

日本では「働くために食べ」、ヨーロッパでは「食べるために働く」と、という言葉がある。現に、彼らは、時間をかけて楽しみながら食事をするのが習慣となつていて、パリ市内を巡っていると、シャッターを降ろして一カ月ほどの夏休みに出かけている店も多く見られた。私達日本人には、誠にうらやましいことであり、また、理解しがたいことである。これらは、彼らの「余裕」としか考えられない。

こういった習慣の違いは抜きにしても、「働くために食べ……」という言葉は、私には、何か意味深いものを象徴しているように思われる。日本は、確かに高度成長を成し遂げた。カメラや電化製品、自動車は、ヨーロッパのいたる所で見受けられ、このこと事態が日本の優れた力をよく表わしている。しかしそれは、何かを犠牲にしてやっとな手に入れたばかりの地位なのではないか。

伝統と文化を大切にする心、美しく手入れされた風景、老人施設の人的な温かさ、つましくとも味わいのある生活を送ろうとする人々……。こんなヨーロッパの「余裕」を、私達も持てるよう、努力したいと思うのである。



ミュンヘンのスポーツクラブ員との交流会 (右が佐藤さん)

「火災」と「地震」を想定

大琴地区で大火防止訓練



地域住民も参加し、本番さながらの訓練を繰り広げた

機消防団が火災の鎮圧にあたっていたところ、本荘沖で震度五の地震発生。これにより二次火災、さらには飛び火による山林火災、油火災が発生した——という想定。「火災発生、全分団出動」を知らせる大型サイレンが鳴り響く中、消防団、地元婦人消防隊、役場特設消防隊、分署員、警察官、交通指導隊、東北電力、合わせて三百余人と、消防車、救急車、水そう車など車両二十五台が出動し、約一時間半にわたって本番さながらに消火活動、救急活動、広報活動を繰り広げました。

大琴小児童、宿郵便局員の避難訓練、さらには今回初めて大琴婦人消防隊員による「炊き出し」訓練も行われ、地域の防災思想の高揚に大きな成果をあげました。

訓練終了後、防火思想普及のため、農協大琴支所前から大琴小グラウンドまで分列行進をしました。

寒さも一段と厳しくなり、今後は、ストーブなどの暖房器具を使うことから一年のうちで最も火災発生の危険が多くなります。また、降雪も加わって防火活動も難しくなり、ちよつとした不注意から大惨事になりかねません。「毎日

が防火デーです。ぼくの家」火の取り扱いには細心の注意を払い、悲惨な「赤い炎の犠牲」にならないようにしたいものです。

消防水利はいつでも使える状態に

消火作業は、一分一秒を争います。降雪期に入り、消火栓や防火水槽、河川、沼、池などの「消防水利」が、雪に埋まっているといったことのないよう、いつでも使える状態にそれぞれの自治会で、確保・管理しておきましょう。

水道の凍結にご用心！

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなるこれからは、水道の凍結が心配です。気温がマイナス四度以下になると、水道が凍ったり破裂したりします。とくに、じゃ口や水道管の立ち上りの部分に多いものです。それぞれの家庭では不凍給水せんや水抜きせんの取り扱いに十分注意して凍結を防いでください。

「火災発生、全分団出動せよ」——十一月七日、秋の大火防止訓練が大琴地区で行われました。

今回は、異常乾燥強風注意報と火災警報が発令されている中、午前十時十分、大琴診療所付近から火災発生。待

小松・木島・伊東さんに表彰状

納税貯蓄組合の普及育成に尽力

納税貯蓄組合法施行三十周年記念秋田県大会が十月二十

年記念秋田県大会が十月二十

小松さん(寺田)・本町に表彰状

優良調査員・団体を 知事表彰

て正確な調査を行っているこ

とが認められたものです。また、本町も、長年にわたって統計思想の普及と調査精度の向上に格段の努力をして

事から表彰状と記念品が贈られました。

高橋係長は、税務職員として、長年にわたり納税意識の普及高揚に努め、町税の連続十五年完納達成に尽力するとともに、県税の賦課徴収に協力し、納税成績の向上に貢献した功績が特に顕著であると認められたものです。

高橋徴収係長が知事表彰

納税成績の向上に貢献

秋田県統計功労者表彰式が十一月十二日、秋田市の児童会館で行われ、席上、本町寺田の小松修一さんに知事から表彰状が贈られました。

小松さんは、十年以上におたり、国勢調査や農業基本調査などの各種統計調査に従事し、統計の重要性を認識し

秋田県納税表彰式が十一月十二日、秋田市の「みずほ苑」

で行われ、本町役場の高橋慶一税務課徴収係長に佐々木知

笑顔で納税

明るい社会

三氏は、長年にわたり納税貯蓄組合の普及育成に努められた功績が認められたものです。

一日、秋田市の「杉の屋」で行われ、席上、本町松柴の小松与惣雄さん(六十九歳)に全国納税貯蓄組合連合会会長から、横小路の本島好元さん(六十九歳)に県納税貯蓄組合連合会会長から、表彰状が贈られました。

また、十一月十三日には、本荘市由利地区納税貯蓄組合表彰式が本荘市商工会館で行われ、小松与惣雄さんに本荘税務署署長から、蔵の伊東知也さん(五十九歳)に本荘市由利地区納税貯蓄組合連合会会長から、表彰状が贈られました。

それでも、もし凍らせてしまったら、水道管にタオルをかぶせ、その上からぬるま湯をかけて解かします。

急に熱湯をかけると、水道管やじゃ口が破裂することがありますので、注意してください。

どうしても解かすことができない時は、役場水道係に連絡してください。但し、作業は有料です。

「チャリティ歌謡ショー」開催

町青年団体連絡協議会

収益金は町社協に寄付

国際障害者年記念
東由利町チャリティショー

「ふれあいの場」に一同開かれたチャリティショー

「福祉への参加」と「思いやりの心の呼び起こし」を町青年団体連絡協議会（小松義嗣会長、六団体）では十月三十一日、プロ歌手、プロマジシャン出演による「国際障害者年記念、東由利町チャリティ歌謡・マジックショー」を有鄰館で開催、収益金を町社会福祉協議会に寄付しました。

困ったときは

人権擁護委員に相談を

十二月四日から十日まで

「人権週間」です。子供からおとなまで、わたしたち一人ひとりの「基本的人権」は、憲法によって保障されています。

これは、国際障害者年にあたる今年、町民ひとりひとりが人間性豊かで思いやりのある「福祉の心」を充実し、障害者への理解を深め、お互いが助け合い、励まし合って、明るく豊かな住みよい町にしていこうと開いたものです。障害者は無料で招待、一般入場料も大人五百円と安いこ

ともあって、会場にあてられた広い集会室も開演の午後七時前にすでにいっぱい。マジックショーでは、会場から小松彪さん（板戸）、小松敏子さん（家の下）が立ち合い人に頼まれステージに立つなど、終始和やかな雰囲気の中で、子供からお年寄りまで五百人余りが約二時間にわたり、歌とマジックを楽しみました。

人権にまつわるトラブルは家庭内のいざこざをはじめ、噂の流布によるいやがらせ、近隣騒音、悪臭、私的制裁の問題など、日常生活の場で起きることが多いのです。といって、そのまま放置しておいて、重大な事態になっ

てからでは不幸な結果を招きがちです。このような人権問題を早期に解決し、被害者を救済するために設けられているのが、人権擁護委員制度です。ふだんの生活で、これは人権問題ではないだろうかと感じたり、法律上どのような方、気軽に相談ください。相談は無料で、むずかしい手続きもいりませんし、相談内容についてはかたく秘密を守りますから、心配はいりません。

人権擁護委員に相談なりたい方は、法務局又は役場住民課・戸籍担当におたずねください。

東由利の地名

= 18 =

葎沢は日当りの良いほぼ平らな土地が集落の前にあって、地味も肥えており、昭和三十三年に東由利で一番早く耕地整理した恵まれた所である。葎沢は前回の鳥居の沢と同じように通称の名で、家の建っている所は、水上と森の越の小字で葎沢という小字はない。こうした土地を生活の場として、昔の人々は見逃すはずがなかったのではないか。

葎の意味は日本国語辞典によれば、「単独で広い範囲に生い茂って草むらをつくる草の類で、いずれも茎や枝にとげがあって、ヤエ

沢シリーズ⑦

葎沢（むぐらさわ）

ムグラ、カナムグラ等の種類がある。ムグラの語源として①茂閑の意（大言海）②クラは木闇の転じたもので、草のくらく茂っている意か」とある。万葉集には牟婁良延ふ賤しき宿も……の歌もある。想像以上に草木が生い茂っていた土地でなかったか。ここに興味深いことがある。

葎沢から山一つ越えた荒沢の嶽石仁三郎家（今は本荘市に移住）の墓が、葎沢部落の墓の権利者七人の一人であることである。この墓地は林沢寺の初代が一六六四年に葎沢に建立（部落人口の道路の上の方）し、一七二八年に現在の

田代に移るまでの寺の一角で、その後ずつと墓地であった。荒沢と葎沢とどちらが早く拓け、人が住みついたかは知る由もないが、部落の佐藤正一さんは荒沢に早く生活し、葎沢の地が肥えた良い土地だったので、山越えしてかよったのではないかと途中の木や草をムグツテかよい難儀したので、ムグラの名がつけられたのではないかと考えた。近くに稲干場と呼んでる所があるが、収穫された稲を運ぶ前に干した跡だろうか。

辞典にあるような意か、それとも佐藤さんの考えの方なのか、両者のまじり合ったことからか、推理は尽きない。（文・畑山昭二）

《人名漢字》

54字増えました

人名用に新採用の54字

伍 伶 侑 兎 孟 峻 嵩 嶺 巴
彬 惇 惟 慧 斐 旦 昂 李 栗
楓 楨 汐 洵 洸 渥 瑛 瑤 璃
甫 皓 晔 矩 碧 笹 緋 翔 脩
苑 茉莉 萌 萩 蓉 路 虹 諒
赴 迪 遙 遼 霞 頤 駿 鳩 鷹

生まれてきた子への最初のプレゼント——それは、名前を付けてあげることです。わたしたちは「名が体を表す」ように願いをこめて、子への深い愛情と夢をその名前に託

します。ところで、この名前に使える漢字が、今年の十月一日から増えたのを存じでしょうか。今まで子供の名前に使える漢字は、千九百七十字（当用

漢字は、千九百七十字（当用漢字表プラス人名用漢字表・同追加表）でした。これが、常用漢字表等の制定により、二千百一十一字（常用漢字表プラス新人名用漢字別表）になりました。つまり、百四十一字増えたことになります。

この中で、新しく人名用漢字別表に仲間入りしたのは「赴」「萊」「遼」などの五十四字（別表参照）。今まで認められなかった「赴夫」や「遼太郎」などの名前もOKになりました。

名前は「もう一つの顔」として、一生ついてまわるもの。それぞれの思いをこめて、ステキな名前を考えてあげたいものです。

12月のこよみ

曜 日	行 事
1 火	貧血、乳がん検診
2 水	風しん予防接種
3 木	貧血、乳がん検診
4 金	ジフテリア予防接種
5 土	
6 日	
7 月	
8 火	乳児検診
9 水	婦人研修講座
10 木	
11 金	
12 土	
13 日	
14 月	ことぶき大学
15 火	
16 水	
17 木	
18 金	貧血改善学級（大蔵館）、麻しん
19 土	
20 日	
21 月	
22 火	
23 水	
24 木	水田再編自治会代表者会議（有鄰館）
25 金	
26 土	
27 日	
28 月	
29 火	
30 水	
31 木	
摘 要	中旬 水田再編対策協議会 25日 固定資産税（4期）納期限

年末小包は早目に

急ぎの郵便物は老方局へ

十二月は郵便局が一年中で最も忙しい時期です。大量の郵便物をスムーズに処理するため、郵便局では、次の点について協力を呼びかけています。

- 一、年賀状を出すときは「年賀町内」
- 二、郵便番号は「ワケ」から読み取れないようにはっきりと書いてください。
- 三、あて名は、番地まではっきりと。様方もつけてください。
- 四、同姓同名が増え、区分別けにとまどつています。
- 五、小包は、しっかりと包装してください。
- 六、12月31日から1月6日まで、老方を除く町内のポスト収集時間を午前十一時頃にくり上げさせていただきます。
- 七、お急ぎの郵便物は、老方局に出してください。

おしらせ

町の概要

人口総数	6,333人
うち男	3,118人
うち女	3,215人
世帯数	1,447戸
面積	148.51km ²
	(56.10.31現在)

あて「年賀その他」と簡単な紙札をつけて十文字に束ねて出してください。

二、普通はがき（私製はがきなど）を年賀状として出されるときは、表面に必ず「年賀」と朱書きしてください。

三、表示されていない場合は年内に配達されます。

三、郵便番号は「ワケ」から読み取れないようにはっきりと書いてください。

四、あて名は、番地まではっきりと。様方もつけてください。

本荘准看護学院

准看生を募集

七、書き損じた年賀はがきは一枚五円の手数料で交換します。

◎募集人員 三十人

◎願書受付 昭和57年1月11日～2月20日

☆生活一般

1、夜間外出はしない。やむを得ず外出する場合でも午後八時までは帰宅する。

高校生の冬休み生活心得

- 2、外泊は厳に慎み、やむを得ない場合は保護者同士の同意を得る。
- 3、酒・タバコ・シンナー等に手をつけない。
- 4、成人映画・パチンコ店・喫茶店等への出入りはしない。
- 5、異性との交友は軽率にならないよう努める。特に女子は、乗用車同乗、異性宅訪問等、不用意に誘いにのらない。
- 6、服装・容姿は乱さず、頭髪は特殊な形にしない。（パーマ、リーゼント、額の深刺）

☆同級会

1、学校の許可を得て参加する。

☆交通安全

1、冬期間は、道路状況が悪化し、事故の多発が予想されるので、交通安全にはじゅうぶんに気をつける。

2、場所は、原則として出身中学校とし、恩師の参加の会であること。

3、時間は、午後五時までに終わるよう計画されたものであること。

☆アルバイト

1、学校の許可を得ること。

この地域では、今、高校生の喫煙追放に力を入れています。各家庭におかれましては、喫煙は決して許さないという断固たる姿勢で協力をお願いします。

〔本荘由利六高校生徒指導連絡協議会〕

社福だより

新町の有限会社・マルテール田（畠山俊郎代表取締役）から、町生活文化祭での売上代金の一部が寄付されました。ありがとうございます。

慶弔だより

10月21日～11月20日届出分

○つづき

佐藤加奈 中通 順一 二女
遠藤亮太 新処 建一 二男
小野学 宿 栄 長男

○結婚

木嶋 博 袖山
嶽石 洋子 五海保

・お悔み申し上げます

小松 トミ 下小路 75歳
大塚 ナミヨ 板戸 74歳
小松 稔 新町 14歳
横山 米治郎 下小屋 69歳
小松 三代三 上里 64歳

阿部 将	横渡
鈴木 富士子	袖山
遠藤 憲一	蔵
伊東 エミ子	大琴
阿部 賢治	羽後町
遠藤 たま子	桂台
嶽石 一人	田代
長谷山 真紀子	山崎
高橋 正勝	横手市
村上 喜代子	家の下
小野 真一	宿
工藤 淳子	高村
小野 勝徳	上里
阿部 美江子	大森町

▼歴史への招待17▼生きるとは何か▼農を求める▼歴史のながのアイデンティティ▼こころの旅▼「落ちこぼし」をどうするか▼モラトリウム人間の時代▼おろろん海峡▼実践・満鉄調査部（上・下）▼日本古寺美術全集・第7巻（四天王寺と河内の古寺）▼菅江真澄全集第12巻▼1812年の雪▼チャレンジャーアイデア工作（木で作るくふう）

會費二百円